



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月4日

上場会社名 池上通信機株式会社

上場取引所 東

コード番号 6771 URL <https://www.ikegami.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清森 洋祐

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役常務執行役員経営管理本部長 (氏名) 青木 隆明

TEL 03-5700-1111

四半期報告書提出予定日 2021年2月5日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	12,622	1.7	868		819		836	
2020年3月期第3四半期	12,835	10.3	530		500		347	

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 773百万円 (%) 2020年3月期第3四半期 407百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	130.99	
2020年3月期第3四半期	55.61	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	23,638	12,122	51.3
2020年3月期	26,130	13,081	50.1

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 12,122百万円 2020年3月期 13,081百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		30.00	30.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,000	9.6	500	34.9	500	9.4	400	43.3	62.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	7,285,746 株	2020年3月期	7,285,746 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	898,770 株	2020年3月期	904,408 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	6,384,606 株	2020年3月期3Q	6,257,259 株

(注) 当社は株式付与ESOP信託制度(2019年8月終了)および従業員持株ESOP信託制度(2019年6月終了)を導入していました。当該信託に係る株式付与ESOP信託口および従業員持株ESOP信託口が所有する当社株式については、連結財務諸表において自己株式として表示していることから、当該ESOP信託口が所有する当該株式数は、「期中平均株式数」の「2020年3月期3Q」から192,776株を控除しています。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

Ikegami

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2020年4月1日～2020年12月31日)におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、依然として厳しい状況が継続しています。各種政策の効果もあり景気を持ち直しの動きが期待されていますが、感染症拡大の収束の目処もたたない状況から、企業収益の大幅な減少や設備投資の抑制が継続するなど、依然として先行き不透明な状況となっています。

一方、世界経済におきましても、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の最中、中国ではいち早く経済活動の再開が進み、米国でも厳しい状況の中、景気を持ち直しに期待がされていますが、欧州では感染症の再拡大の影響により経済活動が抑制されるなど、未だ先行き不透明な状況が続いています。

このような状況下において、当社グループの第3四半期の経営成績は、以下のとおりとなりました。

国内の売上高につきましては、放送システム事業は前年同期を上回りましたが、産業システム事業が伸び悩んだことにより、前年同期を若干下回りました。

一方、海外におきましては、アジア地域では前年同期の売上高を大きく上回りましたが、欧州地域では前年同期を若干下回り、北米地域では、徐々に回復傾向にあるものの、第2四半期までの新型コロナウイルス感染症拡大の影響を挽回するには至らず、前年同期と比べ売上高が減少しました。

この結果、連結売上高は、前年同期比で1.7%減の126億22百万円となりました(前年同期売上高128億35百万円)。

営業損益につきましては、第2四半期に引続き、WEBの活用による営業活動の効率化や経費抑制の成果もありましたが、コロナ禍における設備投資の抑制に伴う競争激化により利益率の低下を余儀なくされたこともあり、8億68百万円の営業損失(前年同期営業損失5億30百万円)となりました。

経常損益につきましては、経常損失8億19百万円(前年同期経常損失5億円)となりました。最終損益につきましては、親会社株主に帰属する四半期純損失8億36百万円(前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失3億47百万円)となりました。

(地域別市場概況)

国内販売につきましては、第2四半期に続き放送用スタジオサブシステムの納入が順調に進んだこともあり、放送システム事業の売上高は前年同期を上回りました。一方、産業システム事業におきましては、検査装置事業では前年同期の売上高を上回りましたが、セキュリティ事業は前年同期を下回りました。メディカル事業においても、第2四半期に引続き新型コロナウイルス感染症対策への投資が優先される状況が続き、医療用カメラ、モニタの販売が例年になく低調に推移したことから、前年同期の売上高を下回る結果となりました。

北米地域におきましては、主力の放送市場は徐々に回復しつつあるものの、メディカル市場では、第2四半期に引続き新型コロナウイルスによる設備投資の鈍化が大きく影響し、売上高は前年同期を下回る5億67百万円(前年同期売上高6億67百万円)となりました。

欧州地域におきましては、放送用カメラシステムの販売が前年同期並みとなりましたが、医療用カメラ、モニタの販売が前年同期を下回る状況で推移したことから、売上高は9億6百万円(前年同期売上高9億51百万円)となりました。

アジア地域につきましては、中国市場で第2四半期に引続きメディカル事業が好調に推移したことから、売上高は前年同期を大きく上回る11億21百万円(前年同期売上高6億87百万円)となりま

した。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、236億38百万円であり、前連結会計年度末に比べ24億92百万円減少しました。流動資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少、仕掛品の増加等により、前連結会計年度末に比べ27億66百万円減の191億54百万円となりました。固定資産は、有形固定資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ2億73百万円増の44億84百万円となりました。

負債総額は115億15百万円であり、前連結会計年度末に比べ15億33百万円減少しました。流動負債は、支払手形及び買掛金、短期借入金の減少等により、前連結会計年度末に比べ7億11百万円減の80億37百万円となりました。固定負債は、社債、長期借入金の減少等により、前連結会計年度末に比べ8億21百万円減の34億78百万円となりました。

純資産については、前連結会計年度末に比べ9億59百万円減少し、121億22百万円となりました。これは主として、当第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純損失計上による利益剰余金の減少等によるものです。

この結果、自己資本比率は、51.3%（前連結会計年度末50.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

世界経済の動向は、段階的な経済活動の再開が進み、景気を持ち直しの動きが期待されていましたが、現時点においても、新型コロナウイルス感染症の収束傾向は見られず、全世界的に感染者数が再び拡大傾向となり、国内においても緊急事態宣言が再発令され、欧州や米国の一部地域でロックダウンが再発令され、また、期限が延期されるなど、更なる状況の悪化が懸念されています。

こうした状況下において、当社の事業環境においても、顧客での設備投資の見直しや延期が生じるなど、業績への影響が懸念される状況は依然として継続しており、いまだ楽観できない状況となっております。

当第3四半期連結累計期間の売上高、損益ともに、2020年11月12日に公表しました2021年3月期の業績予想に比べ、通期予想を12カ月で除した進捗率と大きな乖離がありますが、これは、当社の売上高、損益は、第4四半期連結累計期間に集中する傾向があるためです。上記のとおり、引続き厳しい状況が継続することが見込まれておりますが、現時点において2021年3月期の通期連結業績予想は、2020年11月12日に公表しました業績予想どおりといたします。なお、今後の業績動向等を見ながら、修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,365	4,758
受取手形及び売掛金	6,524	2,620
電子記録債権	245	388
商品及び製品	1,051	1,436
仕掛品	5,520	7,355
原材料及び貯蔵品	1,883	2,074
その他	358	546
貸倒引当金	△29	△25
流動資産合計	21,920	19,154
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	788	804
土地	1,587	1,596
その他（純額）	1,001	1,308
有形固定資産合計	3,377	3,709
無形固定資産	191	123
投資その他の資産		
投資有価証券	323	333
その他	379	377
貸倒引当金	△61	△60
投資その他の資産合計	641	650
固定資産合計	4,210	4,484
資産合計	26,130	23,638
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,218	1,867
電子記録債務	1,723	2,190
短期借入金	2,057	1,609
未払法人税等	51	8
賞与引当金	577	299
役員賞与引当金	52	-
製品保証引当金	127	134
その他	1,940	1,928
流動負債合計	8,749	8,037
固定負債		
社債	1,152	896
長期借入金	1,937	1,507
繰延税金負債	26	29
退職給付に係る負債	516	484
資産除去債務	31	30
その他	636	531
固定負債合計	4,299	3,478
負債合計	13,048	11,515

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,000	7,000
資本剰余金	4,469	4,468
利益剰余金	3,730	2,702
自己株式	△927	△921
株主資本合計	14,272	13,249
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	65	71
為替換算調整勘定	△1,371	△1,300
退職給付に係る調整累計額	115	101
その他の包括利益累計額合計	△1,190	△1,127
純資産合計	13,081	12,122
負債純資産合計	26,130	23,638

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	12,835	12,622
売上原価	8,842	9,354
売上総利益	3,993	3,267
販売費及び一般管理費	4,523	4,135
営業損失(△)	△530	△868
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	64	4
貸倒引当金戻入額	3	4
助成金収入	-	57
その他	40	22
営業外収益合計	107	89
営業外費用		
支払利息	33	27
為替差損	22	7
支払手数料	2	2
社債発行費	17	-
その他	1	4
営業外費用合計	77	41
経常損失(△)	△500	△819
特別利益		
投資有価証券売却益	227	-
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	228	0
特別損失		
固定資産除却損	1	1
債務保証損失	2	-
特別損失合計	4	1
税金等調整前四半期純損失(△)	△276	△820
法人税、住民税及び事業税	71	15
四半期純損失(△)	△347	△836
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△347	△836

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純損失(△)	△347	△836
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	6
為替換算調整勘定	△27	70
退職給付に係る調整額	△35	△13
その他の包括利益合計	△59	63
四半期包括利益	△407	△773
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△407	△773
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響について)

当社グループは、当第3四半期連結会計期間末における会計上の見積り（固定資産の減損の兆候および繰延税金資産の回収可能性の判定）において、新型コロナウイルス感染拡大による影響が翌連結会計年度（2022年3月期）に及ぶものとの仮定に基づき、見積りを実施しております。

なお、当該見積りに用いた仮定の不確実性は高く、新型コロナウイルス感染症による世界経済の低迷がさらに長期化した場合には、翌連結会計年度以降の当社グループの財政状態、経営成績およびキャッシュフローの状況に影響を及ぼす可能性があります。